

受験番号

◎ 指示があるまで開かないこと。

令和5年2月15日 午前用
---------------

## 第74回獣医師国家試験 実地試験問題 (C)

### 注意事項

1. 問題数は60問であり、解答時間は2時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。

〔1〕 各問題には5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した答えを1つだけ選び、次の例にならって答案用紙にマークすること。なお、1問につき2つ以上マークした場合には、そのうちの1つが正答であっても誤りとして取り扱われる。


(例) 問61 我が国で獣医師国家試験事務を受けもっている省はどれか。

1. 厚生労働省
2. 文部科学省
3. 農林水産省
4. 外務省
5. 国土交通省

正答は「3」であるから、答案用紙の

61 E 1 ☐ E 2 ☐ E 3 ☑ E 4 ☐ E 5 ☐のうちE 3 ☑を横線で、  
61 E 1 ☐ E 2 ☐ ~~E 3 ☑~~ E 4 ☐ E 5 ☐とマークすれば良い。

〔2〕 答案用紙のマークには、必ずHBの鉛筆を使用し、次の良い例のとおり、塗りつぶさずに線を引くこと。

良い例…… 悪い例……

〔3〕 答えを修正する場合は、必ずプラスチック製の消しゴムで完全に消し、消し跡や消しクズが残らないようにすること。消し方が悪いと採点されないの  
で注意すること。

〔4〕 答案用紙は、折り曲げたり、メモやチェックなどで汚したりしないよう特  
に注意すること。



問1 〔図1〕は貧血の認められた柴犬から採取した尿の遠心分離後の外観である。  
貧血の原因として最も疑われるのはどれか。

1. ブドウ
2. タマネギ
3. エチレンジグリコール
4. 生アワビ
5. チョコレート

別冊 C

図 1

問2 過密飼育下のウサギが〔図2〕のような外貌と呼吸器症状を示した。最も疑われる病原菌はどれか。

1. *Pasteurella multocida*
2. *Streptococcus pneumoniae*
3. *Citrobacter rodentium*
4. *Pseudomonas aeruginosa*
5. *Yersinia pseudotuberculosis*

別冊 C

図 2

問3 〔図3 - A〕の緑色部分はある人獣共通感染症の流行地域、〔図3 - B〕は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」においてこの感染症の病原体をヒトに感染させるおそれが高いとして輸入が禁止されている動物である。この感染症はどれか。

1. エボラ出血熱
2. ラッサ熱
3. デング熱・デング出血熱
4. 腎症候性出血熱
5. リフトバレー熱

別冊 C  
図 3 - A, B

問4 犬、ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリア、雄、5か月齢。下顎の腫れと開口困難を主訴に来院。〔図4〕はX線側方像である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 骨肉腫
2. 上皮小体機能亢進症
3. 多発性骨髄腫
4. 頭蓋下顎骨症
5. 線維肉腫

別冊 C  
図 4

**問 5** 山間部の X 町および Z 村、平野部の Y 市における家畜の衛生対策実施状況の調査を行った。〔図 5〕に示すように各市町村から無作為で酪農場を抽出し、聞き取り調査を実施した。この調査で使用された標本抽出方法はどれか。

1. 単純無作為抽出
2. 系統無作為抽出
3. 層化無作為抽出
4. 集落無作為抽出
5. 多段階無作為抽出

別冊 C

図 5

**問 6** 〔図 6〕は牛の乳房と乳頭を縦切開した写真である。図中の矢印で指す部分の名称はどれか。

1. 乳管洞
2. 乳頭管
3. 乳管
4. 乳窩
5. 乳腺胞管

別冊 C

図 6

問7 関東地方の厩舎で〔図7〕の外貌を呈する発症馬の血漿から Vero 細胞を用いてウイルスが分離された。同じ時期に厩舎周辺の養豚場の豚の血漿からも同じウイルスが分離された。最も疑われる疾患はどれか。

1. 日本脳炎
2. ウエストナイル熱
3. ゲタウイルス病
4. 馬ウイルス性動脈炎
5. 馬媾疹

別冊 C  
図 7

問8 犬、シー・ズー、未避妊雌、13歳齢。食欲不振および多飲多尿を主訴に来院。身体検査では発熱、血液検査では白血球の増加が認められた。〔図8〕は膀胱付近の超音波検査像である。最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 卵巣腫瘍
2. 子宮蓄膿症
3. 巨大結腸症
4. 膀胱破裂
5. 異所性尿管

別冊 C  
図 8

問9 牛、黒毛和種。群内の子牛10頭で発熱と呼吸器疾患が発生しており、1頭斃死した。病理解剖したところ、肺に〔図9-A, B〕のような病理組織像（HE染色）がみられた。最も疑われる疾患はどれか。

1. 牛RSウイルス病
2. 牛アデノウイルス病
3. 牛伝染性鼻気管炎
4. 牛マイコプラズマ肺炎
5. 牛の非定型間質性肺炎

別冊 C  
図 9 - A, B

問10 猫、雑種。野外で保護され、その後持続的な下痢と食欲不振を示した。糞便から〔図10〕に示す虫卵が検出された。最も疑われる原因寄生虫はどれか。

1. マンソン裂頭条虫 (*Spirometra erinaceieuropaei*)
2. 有棘顎口虫 (*Gnathostoma spinigerum*)
3. 猫胃虫 (*Physaloptera praeputialis*)
4. 横川吸虫 (*Metagonimus yokogawai*)
5. 壺形吸虫 (*Pharyngostomum cordatum*)

別冊 C  
図 10

問11 犬、ウェルシュ・コーギー・ペンブローク、去勢雄、11歳齢。体表リンパ節腫大を主訴に来院。〔図11〕はリンパ節の細針吸引細胞診像（ライトギムザ染色）である。最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 好酸球性リンパ節炎
2. リンパ腫
3. 反応性過形成
4. 髄外造血
5. 組織球性肉腫

別冊 C  
図 11

問12 〔図12〕は、下痢と発育不良を示した豚の腸および腸間膜の肉眼像である。これらの部位の病理所見として適切なものはどれか。

1. 血管の拡張（うっ血）
2. 平滑筋の壊死
3. 漿膜の水腫
4. 粘膜の肥厚
5. リンパ管の拡張

別冊 C  
図 12



問13 〔図 13〕は犬の骨髓塗抹標本（ライトギムザ染色、×1,000）である。所見として適切なのはどれか。

1. 赤芽球系細胞の過形成
2. 骨髓球系細胞の過形成
3. リンパ芽球の著しい増加
4. 形質細胞の著しい増加
5. 巨核芽球の著しい増加

別冊 C  
図 13

問14 牛、黒毛和種、雄、30日齢。数日前より下痢、発熱、腹部膨満が認められた。エコーにて腹水を確認し、開腹したところ、血様腹水および臓器表面に多発性に白色腫瘍がみられた。〔図 14 - A〕は腹腔の肉眼像、〔図 14 - B〕は腹腔内腫瘍の病理組織像（HE 染色）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 扁平上皮癌
2. 化膿性腹膜炎
3. 中皮腫
4. 肉芽腫性腹膜炎
5. 肝細胞癌

別冊 C  
図 14 - A, B

**問15** 〔表 15 - A, B〕はある食中毒事例の潜伏期間別患者数および主な症状別患者数である。最も疑われる食中毒はどれか。

1. アレルギー様食中毒
2. フグ中毒
3. アニサキス症
4. 腸管出血性大腸菌食中毒
5. ブドウ球菌食中毒

別冊 C  
表 15 - A, B

**問16** 猫、ペルシャ、避妊雌、6歳齢。多飲多尿を主訴に来院。〔図 16〕は腎臓の超音波検査像である。最も疑われる疾患はどれか。

1. リンパ腫
2. 水腎症
3. 腎結石
4. 糸球体腎炎
5. 多発性嚢胞腎

別冊 C  
図 16

問17 馬、ハノーバー種、去勢雄、18歳齢。右眼の異常を主訴に来院。〔図17〕は右眼の外貌である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 悪性黒色腫
2. 潰瘍性角膜炎
3. 細菌性結膜炎
4. 扁平上皮癌
5. 髄膜腫

別冊 C  
図 17

問18 〔図18 - A〕は結膜炎、鼻汁の漏出症状を呈した育雛鶏の剖検時の肉眼像である。〔図18 - B〕は培養で得られた病原体のコロニー像である。最も疑われる疾患に関する記述として適切なのはどれか。

- a 宿主特異性が高い病原体である。
- b 「家畜伝染病予防法」における家畜伝染病に指定されている。
- c 高温に強い病原体である。
- d バタリー病とも呼ばれていた。
- e 関節炎を発症することもある。

1. a, b    2. a, e    3. b, c    4. c, d    5. d, e

別冊 C  
図 18 - A, B

問19 水道水中の残留塩素をジエチルパラフェニレンジアミン（DPD）法によって測定した。〔表 19〕は DPD、DPD およびヨウ化カリウム添加後に得られた測定値である。この水道水中に含まれる遊離残留塩素濃度および結合残留塩素濃度の組合せはどれか。

	遊離残留塩素濃度 (mg/L)	結合残留塩素濃度 (mg/L)
1.	0.25	0.30
2.	0.30	0.25
3.	0.25	0.05
4.	0.05	0.25
5.	0.55	0.25

別冊 C  
表 19

問20 豚、交雑種、雌、120 日齢。導入後 1 か月で死亡豚が散見されるようになった。剖検では胸膜と肺が線維素の析出により癒着し肺前葉および中葉を中心に暗赤色硬化巣が認められた。〔図 20 - A〕は肺病変部のルーペ像（HE 染色）、〔図 20 - B〕はその強拡大像である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 豚パストツレラ症
2. 豚流行性肺炎
3. トキソプラズマ症
4. ニューモシスチス肺炎
5. グレーサー病

別冊 C  
図 20 - A, B

問21 〔図 21 - A, B〕がヒトへの感染源となる寄生虫症はどれか。

1. アニサキス症
2. 顎口虫症
3. 裂頭条虫症
4. メタゴニムス症
5. 肺吸虫症

別冊 C  
図 21 - A, B

問22 〔図 22〕はグラム染色像 (A, B) および細胞膜と細胞壁構造模式図 (C, D) である。細菌、グラム染色像および構造模式図の組合せとして正しいのはどれか。

- | 細菌                                 | グラム染色像 | 構造模式図 |
|------------------------------------|--------|-------|
| 1. <i>Escherichia coli</i>         | A      | C     |
| 2. <i>Staphylococcus aureus</i>    | A      | D     |
| 3. <i>Yersinia enterocolitica</i>  | B      | C     |
| 4. <i>Streptococcus agalactiae</i> | B      | D     |
| 5. <i>Klebsiella pneumoniae</i>    | A      | D     |

別冊 C  
図 22 - A, B, C, D

問23 犬、ミニチュア・ダックスフンド、去勢雄、5歳齢。突然の背部痛と後肢麻痺を主訴に来院。〔図23 - A〕は胸腰部MRI像（T2強調矢状断像）である。徐々に呼吸状態が悪化し、3日後に斃死した。〔図23 - B〕は矢印付近の脊髓の横断面である。最も疑われる疾患・病態に関する記述として適切なのはどれか。

1. 原始糸球体様構造を伴う腫瘍細胞が増殖し、脊髓を圧迫して傷害する。
2. 脊髓を中心に白質病変を形成する遺伝性疾患である。
3. 脊髓灰白質中心部に長軸方向に伸長した管状の空洞を形成する。
4. 変性した髓核が脊柱管内に脱出し、脊髓に急性の変性、壊死を起こす。
5. 外傷等の強い外力によって、脊髓周囲に出血を起こす。

別冊 C  
図 23 - A, B

問24 過密飼育されたラットが下痢、消瘦を呈して死亡した。剖検したところ、〔図24 - A〕のような病変が認められた。〔図24 - B〕はこの病巣部のスタンプ標本（ギムザ染色、×1,000）である。原因菌として最も疑われるのはどれか。

1. *Corynebacterium kutscheri*
2. *Pasteurella pneumotropica*
3. *Clostridium piliforme*
4. *Helicobacter hepaticus*
5. *Bordetella bronchiseptica*

別冊 C  
図 24 - A, B

**問25** 〔図 25〕はと畜検査に合格したある獣畜の枝肉に押された検印である。この検印を押すことが規定されている獣畜はどれか。

1. 牛
2. 馬
3. 豚
4. めん羊
5. 山羊

別冊 C  
図 25

**問26** 〔図 26〕は犬の頭頸部 MRI 像（T2 強調矢状断像）である。矢印の位置にアーチファクトが認められる。この原因として最も適切なのはどれか。

1. 撮影室内の温度変化
2. 造影剤の漏出
3. 症例の体動
4. 気管チューブ内の金属コイル
5. 皮下のマイクロチップ

別冊 C  
図 26

問27 〔図 27 - A, B, C〕は長期不受胎で廃用になった3頭のホルスタイン種乳牛の卵巣に認められた構造物の割断面である。それぞれの病変・疾患の組合せとして適当なのはどれか。

- | A       | B       | C        |
|---------|---------|----------|
| 1. 卵巣静止 | — 卵胞嚢腫  | —— 嚢腫様黄体 |
| 2. 卵胞嚢腫 | — 黄体嚢腫  | —— 嚢腫様黄体 |
| 3. 黄体嚢腫 | — 卵胞嚢腫  | —— 黄体遺残  |
| 4. 卵巣静止 | — 嚢腫様黄体 | —— 卵巣萎縮  |
| 5. 卵胞嚢腫 | — 嚢腫様黄体 | —— 黄体遺残  |

別冊 C  
図 27 - A, B, C

問28 〔表 28〕は平成元年から令和3年までに届出のあったある食中毒の原因魚種をまとめたものである。この食中毒または有毒成分に関する記述として適切なものはどれか。

- a ヒョウモンダコもこの有毒成分をもつ。
- b 加熱調理によって無毒化されない。
- c 食物連鎖によって魚類に蓄積する。
- d 日本では毎年死亡例が確認されている。
- e 冬季に多発する。

1. a, b    2. a, e    3. b, c    4. c, d    5. d, e

別冊 C  
表 28



**問29** 馬、サラブレッド種、雄、2歳齢。運動時に喘鳴を呈した。〔図29〕は病変部の内視鏡検査像である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 喉頭蓋下嚢胞
2. 喉頭片麻痺
3. 喉頭蓋エントラップメント
4. 軟口蓋背方変位
5. 喉嚢炎

別冊 C

図 29

**問30** 馬、ブルトン種、雌、4歳齢。受精前に繁殖健診として超音波検査を行った。〔図30 - A〕は子宮の短軸断像、〔図30 - B〕は右卵巢の所見である。左卵巢には直径2.5 cm以上の構造物は認められなかった。超音波検査所見の解釈として適切なものはどれか。

1. 卵嚢腫なので治療を要する。
2. 発情期であるが、交配適期は数日後と見込まれる。
3. 黄体期であり、この黄体が退行した後に発情が発現する。
4. 発情期で交配の適期である。
5. 子宮内膜炎の炎症所見があり、治療を要する。

別冊 C

図 30 - A, B

**問31** 〔図 31〕は我が国の公共用水域（河川、湖沼、海域）における BOD または COD の環境基準達成率の推移である。BOD を用いて測定されている水域の推移はどれか。

1. アのみ
2. イのみ
3. ウのみ
4. アおよびイ
5. イおよびウ

別冊 C  
図 31

**問32** 犬、ボーダー・コリー、去勢雄、10 歳齢。前日からのふらつきと虚脱を主訴に来院。既往症として僧帽弁逆流によるうっ血性心不全があり、強心薬を用いて加療中であった。〔図 32〕は本症例の心電図である。所見として最も適当なのはどれか。

1. 心房粗動
2. 心房細動
3. 心室細動
4. 第 2 度房室ブロック
5. 完全房室ブロック

別冊 C  
図 32

問33 〔図 33 - A〕は水様性の下痢を呈した幼豚の大腸の HE 染色像、〔図 33 - B〕は大腸粘膜固有層の拡大像（HE 染色）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. コクシジウム症
2. バランチジウム症
3. *Lawsonia intracellularis* 感染症
4. 豚赤痢
5. アメーバ症

別冊 C  
図 33 - A, B

問34 泌乳量減少、体細胞数増加を呈した搾乳牛の乳汁から病原体の分離培養を試みた。〔図 34〕は培養で得られた病原体のコロニー像である。最も疑われる病原体はどれか。

1. *Pseudomonas aeruginosa*
2. *Mycoplasma (Mycoplasma) bovis*
3. *Prototheca zopfii*
4. *Klebsiella pneumoniae*
5. *Proteus mirabilis*

別冊 C  
図 34

問35 豚、デュロック種。分娩前後の母豚の全身状態に異常はなかったが、出産した子豚10頭のうち生存したのは6頭で、残り4頭は〔図35〕のような状態で娩出された。疑われる疾患はどれか。

- a 豚サーコウイルス感染症
- b 豚エンテロウイルス感染症
- c 豚インフルエンザ
- d 日本脳炎
- e 豚パルボウイルス感染症

1. a, b    2. a, e    3. b, c    4. c, d    5. d, e

別冊 C  
図 35

問36 〔図36〕は鶏の飼養で用いられるある設備である。この設備に関する記述として誤っているのはどれか。

- 1. ハッチャーである。
- 2. 庫内温度は37～38℃、湿度は60～70%程度に保たれる。
- 3. 17～19日齢の胚が移される。
- 4. 毎時1回程度の転卵が行われる。
- 5. 卵内接種によるワクチン接種はこの設備に移す際に行われる。

別冊 C  
図 36

問37 〔図 37 - A〕はある感染症に罹患しためん羊の特徴的な外貌である。〔図 37 - B〕は本疾患の発生国を示す。最も疑われる疾患はどれか。

1. ヨーネ病
2. ブルータング
3. 小反芻獣疫
4. 伝染性膿疱性皮膚炎
5. 羊痘

別冊 C  
図 37 - A, B

問38 犬、雑種、去勢雄、12歳齢。元気食欲の低下と運動不耐性を主訴に来院。白血球数  $3,200 / \mu\text{l}$ 、赤血球数  $2.7 \times 10^6 / \mu\text{l}$ 、Ht 値 18%、ヘモグロビン濃度 5.1 g/dl、血小板数  $19 \times 10^4 / \mu\text{l}$ 。〔図 38 - A〕は末梢血塗抹標本（ライトギムザ染色、 $\times 1,000$ ）である。〔図 38 - B, C〕は骨髓の塗抹標本（B：ライトギムザ染色、C：ペルオキシダーゼ染色、いずれも  $\times 1,000$ ）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 急性リンパ芽球性白血病
2. 慢性リンパ球性白血病
3. 急性骨髄性白血病
4. 慢性骨髄性白血病
5. 再生不良性貧血

別冊 C  
図 38 - A, B, C

**問39** 肥育豚が元気消失し、遊泳運動を呈して死亡した。〔図 39 - A〕は脳の肉眼像である。〔図 39 - B〕は培養で得られたコロニー、〔図 39 - C〕はグラム染色像（×1,000）である。最も疑われる疾患に関する記述として適切なのはどれか。

- a 本症の病原体は4℃でも増殖する。
- b げっ歯類がレゼルボアである。
- c 菌分離にはV因子が必要である。
- d 人獣共通感染症である。
- e 不活化ワクチンがある。

1. a, b    2. a, e    3. b, c    4. c, d    5. d, e

別冊 C

図 39 - A, B, C

**問40** 犬、ミニチュア・ダックスフンド、避妊雌、6歳齢。多発性の皮下結節と瘻孔がみられた。〔図 40 - A〕は動物の外貌、〔図 40 - B〕は病変部の拡大像である。〔図 40 - C, D〕は病変部の細針吸引細胞診像（ライトギムザ染色、C：×100、D：×400）である。最も疑われる疾患はどれか。

- 1. 表在性膿皮症
- 2. 皮膚糸状菌症
- 3. 無菌性結節性脂肪織炎
- 4. 毛包虫症
- 5. 皮膚組織球症

別冊 C

図 40 - A, B, C, D

**問41** 牛、交雑種、雄、3か月齢。〔図41〕のような病変が頭部から頸部にかけて次第に拡大してきた。本症例に対する治療薬として最も適当なのはどれか。

1. オキシテトラサイクリン
2. プロピレングリコール
3. イベルメクチン
4. 流動パラフィン
5. ナナフロシン

別冊 C  
図 41

**問42** 犬、パグ、雌、10か月齢。高所から飛び降りてから右後肢を床に着かないとの主訴で来院。〔図42〕は本症例の股関節のX線腹背像である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 大腿骨頸部骨折
2. レッグペルテス病
3. 股関節形成不全
4. 股関節脱臼
5. 汎骨炎

別冊 C  
図 42

問43 犬、フレンチ・ブルドッグ、避妊雌、11歳齢。食欲不振、嘔吐および下痢を主訴に来院。上腹部に腫瘤を触知した。〔図43 - A, B〕は腹部単純X線像（A：側方像、B：腹背像）である。〔図43 - C〕は細針吸引細胞診像（ライトギムザ染色、×400）である。最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 腎臓腫瘍
2. 副腎腫瘍
3. 異物による肉芽腫
4. 消化管間質腫瘍
5. 肝臓腫瘍

別冊 C  
図 43 - A, B, C

問44 〔図44〕は大気の鉛直構造である。最も高濃度のオゾンが分布する層とその層の名称の組合せはどれか。

- |    | 高濃度オゾン分布層 | 層の名称 |
|----|-----------|------|
| 1. | A —————   | 成層圏  |
| 2. | A —————   | 対流圏  |
| 3. | B —————   | 成層圏  |
| 4. | B —————   | 対流圏  |
| 5. | C —————   | 中間圏  |

別冊 C  
図 44



**問45** 繁殖施設で飼養されていたパグが、下痢と食欲不振を示した。下痢便中には〔図45〕に示す虫体が検出された（ギムザ染色）。最も疑われる疾患またはその病原体に関する記述として適切なのはどれか。

1. 駆虫にはサルファ剤が有効である。
2. 栄養型虫体の経口摂取により感染する。
3. 子犬よりも成犬で保有率が高い。
4. ヒトへの寄生例はない。
5. 胆嚢炎を引き起こす場合がある。

別冊 C

図 45

**問46** 〔表46 - A〕は2014年度から2021年度におけるある家畜伝染病の国内発生戸数（疫学関連農場を除く）、〔表46 - B〕は2020年度における月別発生戸数（疫学関連農場を除く）である。この感染症はどれか。

1. 高病原性鳥インフルエンザ
2. 口蹄疫
3. 豚熱
4. 伝達性海綿状脳症
5. 家きんコレラ

別冊 C

表 46 - A, B

**問47** 犬、ウェルシュ・コーギー・ペンブローク、雄、13歳齢。発熱および食欲低下を主訴に来院。〔図47-A〕は前立腺の超音波検査像、〔図47-B, C〕は前立腺分泌液の細胞診像（ギムザ染色、B：×100、C：×1,000）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 前立腺癌
2. 前立腺肥大症
3. 前立腺膿瘍
4. 前立腺嚢胞
5. 傍前立腺嚢胞

別冊 C  
図 47 - A, B, C

**問48** 牛、ホルスタイン種、雌、5歳齢。跛行を呈して診察した。削蹄したところ〔図48〕のように患部に埋没している小石を認めた。最も疑われる疾患はどれか。

1. 趾間過形成
2. 趾間皮膚炎
3. 蹄球びらん
4. 白帯病
5. 趾皮膚炎

別冊 C  
図 48

**問49** 〔図 49 - A, B〕は 2013 年 3 月から 2021 年 7 月までに届出のあったある人獣共通感染症の都道府県別発生状況および月別発生状況である。この感染症はどれか。

1. 日本脳炎
2. E 型肝炎
3. ツツガムシ病
4. 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)
5. トキソプラズマ症

別冊 C  
図 49 - A, B

**問50** 犬、ゴールデン・レトリバー、去勢雄、9 歳齢。四肢の腫れ、熱感および疼痛を主訴に来院。〔図 50 - A〕は胸部単純 X 線側方像、〔図 50 - B, C〕は前肢の単純 X 線頭尾像 (B: 右側、C: 左側) である。両前肢の疾患・病態として最も疑われるのはどれか。

1. 関節リウマチ
2. 肺腫瘍の骨転移
3. 多発性骨髄腫
4. 肥大型骨症
5. 外傷

別冊 C  
図 50 - A, B, C

**問51** 犬、ダックスフンド、避妊雌、9歳齢。交通事故後に来院。〔図51 - A, B〕は骨盤部の単純X線像（A：側方像、B：腹背像）である。外科的整復を適応する部位として適当なのはどれか。

1. 腸骨体
2. 寛骨臼
3. 坐骨結節
4. 恥骨
5. 仙腸関節

別冊 C  
図 51 - A, B

**問52** 牛、ホルスタイン種、雌、3歳齢。食欲不振、異嗜、下痢、発情の遅延を呈した。〔図52〕は症例の外貌である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 疥癬
2. 光線過敏症
3. 皮膚糸状菌症
4. 銅欠乏症
5. デルマトフィルス症

別冊 C  
図 52

問53 犬、ボーダー・コリー、避妊雌、5歳齢。2か月前からの粘液性の鼻汁、くしゃみを主訴に来院。〔図53 - A, B〕は症例の頭部CT横断像である。〔図53 - C〕は前頭洞内の内視鏡検査像である。最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 鼻腔内腫瘍
2. リンパ球形質細胞性鼻炎
3. 真菌性鼻炎
4. 鼻腔内異物
5. 鼻咽頭ポリープ

別冊 C

図 53 - A, B, C

問54 〔図54〕は免疫グロブリンをある酵素で切断した模式図である。得られた断片と消化酵素の組合せとして適切なものはどれか。

- | 断片                     | 酵素   |
|------------------------|------|
| 1. Fab                 | ペプシン |
| 2. Fab                 | パパイン |
| 3. F(ab') <sub>2</sub> | ペプシン |
| 4. F(ab') <sub>2</sub> | パパイン |
| 5. Fc                  | ペプシン |

別冊 C

図 54

問55 〔図 55 - A, B〕は4歳齢のビーグルの膣スミア検査所見（ライトギムザ染色）である。それぞれの発情周期の組合せとして最も適切なのはどれか。

- | A        | B         |
|----------|-----------|
| 1. 発情期   | ——— 発情休止期 |
| 2. 発情前期  | ——— 無発情期  |
| 3. 発情期   | ——— 発情前期  |
| 4. 発情休止期 | ——— 発情期   |
| 5. 無発情期  | ——— 発情期   |

別冊 C  
図 55 - A, B

問56 犬、シー・ズー、避妊雌、6歳齢。3日前からの血尿を主訴に来院。頻尿はないとのことであった。〔図 56 - A〕は、腹部単純 X 線側方像である。〔図 56 - B, C〕は腹部超音波検査像（B：右腎臓、C：左腎臓）である。尿検査では白血球は存在せず、尿の培養検査では細菌の増殖は認められなかった。最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 感染性腎盂腎炎
2. 腎臓腫瘍
3. 尿道閉塞
4. 膀胱結石
5. 尿管結石

別冊 C  
図 56 - A, B, C

**問57** 〔図 57〕はあるふん尿処理方法の工程である。この処理方法に関する記述として適切なのはどれか。

1. Aは沈殿槽である。
2. 悪臭の発生が問題となることが多い。
3. 嫌氣的微生物が用いられる。
4. 有機物は酸化反応によって最終的に水と二酸化炭素に分解される。
5. 窒素化合物は最終的に窒素ガスとなって除去される。

別冊 C  
図 57

**問58** 牛、ホルスタイン種、雌、3歳齢。難治性の下痢症により消瘦し死亡した。剖検では腸管粘膜に〔図 58〕の病変がみられた。最も疑われる疾患はどれか。

1. ブルセラ症
2. ヨーネ病
3. ネオスポラ症
4. レプトスピラ症
5. パスツレラ症

別冊 C  
図 58

**問59** 犬、柴、避妊雌、10歳齢。6か月前に卵巣がんの摘出術を受けた。〔図59 - A, B〕は本症例の胸部X線像（A：側方像、B：腹背像）である。腫瘍の転移が疑われる部位はどこか。

1. 前縦隔リンパ節
2. 気管支リンパ節
3. 右肺中葉
4. 左肺前葉後部
5. 肺副葉

別冊 C  
図 59 - A, B

**問60** 犬、トイ・プードル、去勢雄、11歳齢。3か月前に前肢のできものに気づき、徐々に増大してきたとのことで来院。〔図60 - A〕は腫瘍の肉眼像、〔図60 - B〕は腫瘍の細針吸引細胞診像（ライトギムザ染色、×400）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 毛包上皮腫
2. 軟部組織肉腫
3. 軟骨肉腫
4. 血管肉腫
5. 悪性黒色腫

別冊 C  
図 60 - A, B









